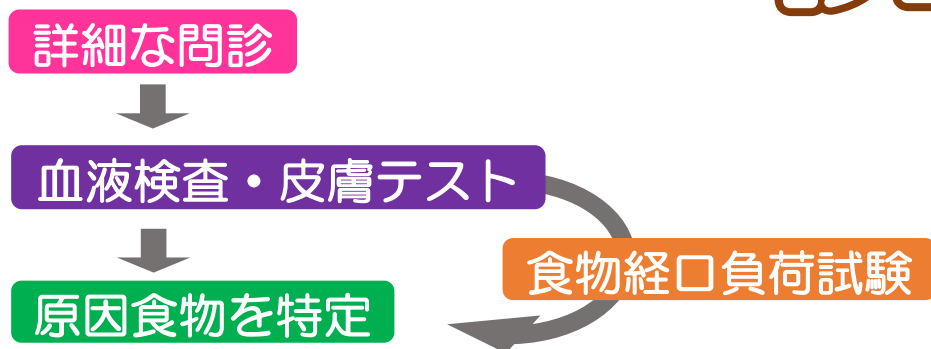


食物アレルギーの 診断と検査



詳細な問診、血液検査・皮膚テストにより、原因食物を特定します。
それだけでは判断が難しい場合には、食物経口負荷試験により診断確定を行うこともあります。

問 診

食物アレルギーの診断は、食物摂取時の症状をしっかりと把握することが最も重要です。摂取した食品・量・症状の様子・摂取から症状出現までの時間経過などを確認することで、食物アレルギーによる症状かどうか、大部分は予測できます。

血液検査

総IgE値は、IgE抗体の総量を示し、アレルギー体質の強さを反映しています。

特異的IgE値は、目的とするアレルゲンそれぞれに対するIgE抗体です。測定値によって抗体価（クラス）が判定され、クラス0は陰性、クラス6まであり、クラス値が高いほど強い陽性となります。

*IgE抗体：アレルギーを引き起こすタイプの抗体

*アレルゲン：アレルギー反応を起こす原因物質（食物や花粉など）

皮膚テスト 皮膚プリックテスト

アレルゲンの試薬を皮膚にのせた上から、針で少し傷をつけて15分後に皮膚の反応をみるものです。検査が簡単で、小さな赤ちゃんにもすぐにできます。

当院では卵白・牛乳・小麦のアレルゲン試薬による検査が可能です。また、果物や野菜の検査も行うことができます。

